

新機一転

中部運輸局長
かむら てつや
嘉村 徹也氏



1966年4月、神奈川県生まれ。東大法学部卒、1990年4月、運輸省（当時）入省。2004年、国交省大臣官房人事課長補佐。海事局安全・環境政策課企画調査室長、内閣府沖縄総合事務局運輸部長などを経て18年、関東運輸局次長。19年、鉄道建設・運輸施設整備支援機構経営自立推進統括役。21年1月から現職。

リニア、北陸新幹線で開発効果を最大に コロナ後の観光需要発掘にも知恵出したい

【矜持の高いエリア】 3英傑など歴史伝統的存在感の他に自動車など世界的なモノづくり・技術的集積もあり、軽工業、例えば鋳物でも高度な技術・職人を持っていてフライパンや炊飯器が最近有名ですね。一説には、名古屋は元々、「ねごや」＝侍の館＝と言って朝廷の権威とは別の独自の気風や秩序を持つところから来た、あるいは朝廷が各地の主要な地方の地名は2文字と命じたのに当地区は3文字にした、とか聞き及びました。このエリアの伝統と矜持をととても感じます。好きな街歩きで建設現場の「建築計画」を見るのが好き。ここにこんな建物が建ちこいう暮らしが生まれ、このように公共交通を使うのかという想像が楽しい。

【安全マニュアルを作る】 海事局の室長時代に船内・港湾労働の安全マニュアルを作りました。海事関係者の現場を回り、各当事者の、「積み荷の下に入らない」「ロープ事故防止」など整理してまとめました。統合的にまとめたマニュアルがなかったのです。また鉄道建設・運輸施設整備支援機構では非鉄道事業を含め企業価値

を高め地域で存在感ある企業になりましょう、と提案。駅前や周辺開発などでは徐々に着手されています。

【観光の潜在需要を掘り起こす】 コロナ対応では、公共交通機関の安全安心対策はもちろん、事業者への経済支援はもとより雇用のマッチングを調整するなど親身な支援をしています。リニア建設、北陸新幹線の開発効果を最大限にする街づくりについても存在感を出して参りたい。中部空港の関係では、インバウンドが戻ってきたときに海外客を一層呼べるよう、観光以外の国際会議やシンポジウムなどの誘致の動きとも協調しつつ、中部地方の歴史・伝統やモノづくりを世界に発信するお手伝いをしたい。さらに、新しい旅のスタイルの提案として国内旅行でも例えば、ペットを預かるホテルや介護職の常駐などで潜在的な需要を掘り起こしていく。また、マイクロツーリズムで、地元の人に観光地を利用していただく地元再発見の旅を。これも潜在的な需要の掘り起こしです。